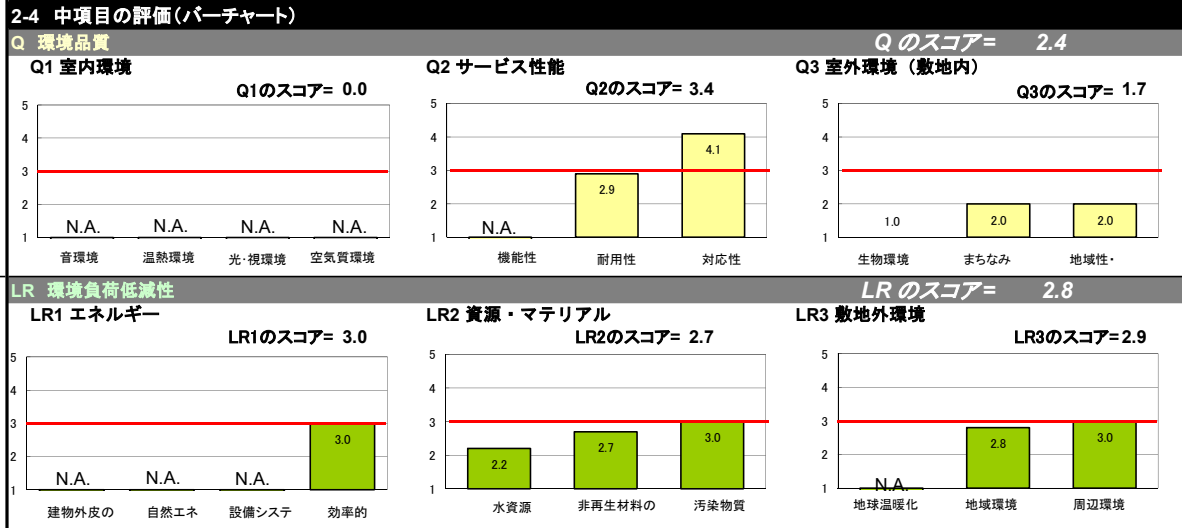
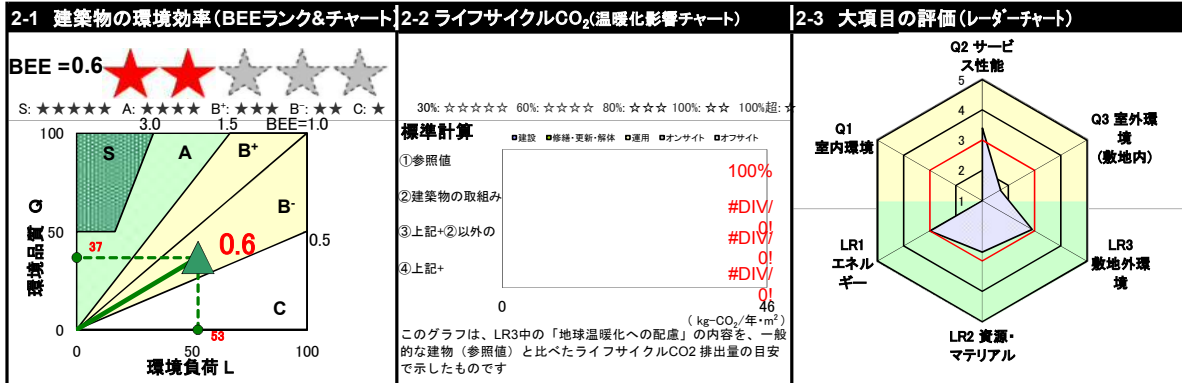


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	702試験棟	階数	地上2階
建設地	愛知県清須市西枇杷島町旭三丁目	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年11月 予定	評価の実施日	2019年1月7日
敷地面積	2,439 m ²	作成者	㈱エネ・グリーン松本拓也
建築面積	1,149 m ²	確認日	2019年1月8日
延床面積	2,155 m ²	確認者	㈱エネ・グリーン定森淳一



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">7.7 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動に応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	全体	
	重点項目										建物全体・共用部
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ソーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

独自

上位3種がB以上、Eが不使用

耐震クラスA

3 対応性・更新性					4.1	0.48			-	4.1
3.1 空間のゆとり					4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高3.90m以上		5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.13		4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			4500N/㎡以上		5.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性		②			3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性					3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性					3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性					3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性					3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性					3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57			-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			2.0	0.40			-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上					2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性										2.8
LR1 エネルギー					-	0.40			-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制									-	
2 自然エネルギー利用									-	
3 設備システムの高効率化									-	
4 効率的運用					3.0	1.00			-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50			-	
集合住宅の評価									-	
4.1 モニタリング									-	
4.2 運用管理体制									-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			-	2.7
1 水資源保護					2.2	0.15			-	2.2
1.1 節水					1.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.7	0.63			-	2.7
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-		3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					1.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGs下地の採用		4.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			-	
1 消火剤									-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	1.00			-	
3 冷媒									-	
LR3 敷地外環境					-	0.30			-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①							-	
2 地域環境への配慮					2.8	0.50			-	2.8
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善					3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自			1.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.50			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			-	
1 騒音		独自			3.0	1.00			-	
2 振動		独自							-	
3 悪臭									-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			-	
1 風害の抑制					3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制									-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30			-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:7.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス性能、敷地内環境に配慮している。 ・解体時におけるリサイクル性に配慮している。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・給排水管は上位3種がB以上、Eが不使用。 ・設備機器の耐震クラスはAとしている。 ・階高3.90m以上、壁長さ比率0.13等、空間のゆとりに配慮している。 ・積載荷重は4500N/m²以上としている。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・既存緑地を継承している。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・特に無し。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・LGS下地の採用等、リサイクル性への配慮を行う。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・特に無し。
その他	